

イオンモール川口

AEON MALL KAWAGUCHI

No. 19-032-2021作成
新築
物販／飲食／集会場

発注者・事業主 サイボー株式会社・イオンモール株式会社	カテゴリー
設計・監理 ㈱安藤・間 一級建築士事務所	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術／FB
㈱安藤・間 工事監理一級建築士事務所	E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携
施工 ㈱安藤・間 関東支店	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他

「Kawaguchi green park」をコンセプトに社会環境に合わせ進化した大型商業施設

事業計画・設計コンセプト

1984（昭和59）年のオープン以来34年間地域に親しまれてきた「イオンモール川口」（旧川口グリーンシティ）を解体し、敷地面積を約3倍、延床面積を約2倍のスケールとする建替プロジェクトである。「Kawaguchi green park」をコンセプトとし、外装は立体感のある壁面形状で表情の違う面が重なるようなデザインと周辺環境に調和したモノトーンを基調とした色彩を採用した。内装は1階から4階まで連続した丘をイメージした吹抜を軸とした空間構成に木目と緑と金属をあしらったデザインにまとめた。



南西側夕景（表情の違う面が重なる変化のあるデザイン）



ヒルズガーデン（連続した丘をイメージした緑のある吹抜）

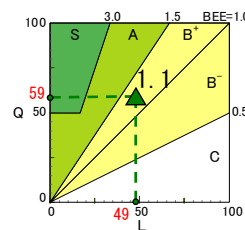
防災・防疫への取り組み

イオンモールの施設コンセプトである「ハピネスモール」を具現化するため安全・安心をもたらす建物として、一部天井を中止し2kg/㎡以下のルーバー天井化や構造計算（水平震度法）による特定天井の採用、客先の防煙垂壁を全て軽量不燃シート化、耐衝撃性スプリンクラーヘッドや耐震型排煙口の採用、4,000㎡の雨水貯留槽の設置、マンホールトイレ対応、受変電設備を上階に設置することでのBCP対応を盛り込んだ他、アフターコロナ対応として窓の開閉可能化、換気増強、喫煙室の屋外化、抗菌・抗ウイルス建材の採用、便器類の非接触化等を取り入れた。



南側全景（周辺環境に調和したボリューム設定と色彩計画、サイン計画、植栽計画）

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地 埼玉県川口市	BP1(モデル建物法) 1.01	B+ランク BEE=1.1
竣工年 2021年	BEI(モデル建物法) 0.85	2016年度版 自治体提出
敷地面積 74,065㎡	LCCO ₂ 削減 7%	
延床面積 126,301㎡		
構造 S造		
階数 地上4階(店舗棟)、地上6階(立駐棟)		



環境への取り組み

省エネ・省CO2技術として、トイレの洗浄水と外構散水に工業用水を使用、太陽光ライトチューブ・Low-Eガラス・ハイサイドライトによる自然採光、芝生駐車場（5,160㎡）、フェンス緑化（406㎡）、EV充電器の設置、人感センサーやひも付照明器具による節電、風除室自動ドアを側面配置とする外気流入低減、空調熱源機器をエリア毎に分散配置することで各エリアに応じた効率的な熱源運転とモジュール制御(複数台の熱源機が連携し高い効率を発揮)により館内滞留人数に合わせた柔軟な運転を行っている。東京電力の「非FIT非化石証書付電力メニュー」により実質的にCO2排出量ゼロとなる電力を調達している他、空調で使用する都市ガスは東京ガスから「カーボンニュートラル都市ガス」の供給を受けている。施工面での配慮として、杭残土の自ら利用による搬出の削減、コンクリートのPC化や基礎型枠にラス型枠を採用することでの南洋材使用削減を実現した。植栽には「イオンふるさとの森づくり」のコンセプトの元、埼玉県南部に本来自生する樹種40種を選定し近隣住民参加による植樹祭を実施した。館内の子どもの遊び場「モクイクひろば」には埼玉県産材を使用した木製の遊具を設置している。

長寿命化とユニバーサルデザイン

維持管理面での配慮として、基本計画時よりゆとりのある階高設定とした他、プレースのない純ラーメン構造とすることで内部レイアウトの自由度を高めた構造とした。立体駐車場棟は大臣認定品を採用し鉄骨の耐火被覆、防火区画、消防設備の免除を受け維持管理の簡素化に繋がった。駐車場や外部階段等ハトの侵入想定箇所には全面的に防鳥ネットを張り糞害対策をあらかじめ実施した。ユニバーサルデザインの取り組みとして、バリアフリー法の認定取得を始めモール内・トイレ・フードコート等に子育て支援に繋がる多様な設備の増強を図った。



センターコート（2kg/㎡以下のルーバー天井、災害時の緊急避難放送も可能な大型LEDサイネージ）

設計担当者

基本設計・監理監修：株式会社松田平田設計／環境デザイン：株式会社ディ・ブレイン研究所／実施設計：株式会社安藤・間一級建築士事務所／意匠：宮本一郎、植田英輔、永松弘次、鈴木稜平／構造：鈴木和弘、春山智史／設備：鈴木竜一、紀伊満由子

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（大容量雨水貯留槽、2階レベルの特高受変電、天井・防煙垂壁・消防設備の耐震化、ウイルス対策）
- Q2. 3. 対応性・更新性（階高のゆとり、プレースの無い構造、マシンハッチ）
- LR2. 1. 水資源保護（工業用水の使用、節水型器具）
- LR2. 2. 非再生性資源の使用量削減（躯体のPC化、ラス型枠の使用、杭残土の自ら利用）
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮（熱源分散配置によるエリアごとの運転、モジュール制御、Low-Eガラス、太陽光ライトチューブ）
- LR3. 2. 地域環境への配慮（芝生駐車場、フェンス緑化、交通負荷抑制、光害・日影対策、植樹祭の開催）



フードフォレスト（水平震度法による特定天井とLow-Eガラスからの自然採光を備えたフードコート）



イーストコート（自然採光と自然換気が可能なハイサイドライトのある吹抜）



全体配置図（敷地面積の15%の緑化を確保）